

目 次

1

・ 総括報告書

肝硬変に対する細胞治療法の臨床的確立とそのメカニズムの解明

坂井田 功

・ 分担研究年度終了報告

1. C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法の有効性と安全性の検討

柳瀬 幹雄

2. ABM_i療法における血清アルブミン値と生命予後の検討、およびC型肝炎硬変に対する

多施設対照化比較試験の実施に向けた取り組み

上野 義之

3. 肝硬変に対する細胞治療法の臨床的確立とそのメカニズムの解明

宮島 篤

4. 成体肝臓が内包する免疫非依存性異常細胞排除機構の発見とその解明

仁科 博史

5. NASHの病態形成におけるマクロファージの病態生理的意義

小川 佳宏

6. 新規の線維肝再生促進因子 OGFRL1 の組織特異的分布と機能解析

稲垣 豊

7. 皮下脂肪組織由来の間葉系幹細胞の肝硬変に対する効果の研究

大河内仁志

8. 肝硬変に対する脂肪組織由来間質細胞の治療効果機序の解明

酒井 佳夫

9. 骨髄細胞中の肝炎ウイルスの検出

梅村 武司

10. 肝線維化における CTGF の意義と新規治療標的としての可能性

疋田 隼人

. 研究成果の刊行に関する一覧表

. 研究成果の刊行物・別刷